

## 報 告

## 第 62 回日本歯科理工学会学術講演会報告

平成 24 年度秋期第 62 回日本歯科理工学会学術講演会が、日本歯科大学新潟生命歯学部歯科理工学講座教授、宮川行男先生を大会長として、2013 年 10 月 19、20 日の両日、日本歯科大学新潟生命歯学部キャンパスにおいて開催された。本大会における一般講演の演題数は口頭発表 27 題、ポスター発表 77 題であり、また Dental Materials Advisor/Senior Advisor 特別セミナーを兼ねた特別講演と企業展示が開催された。

大会初日の口頭発表ではレジン・セラミックス・セメントおよび細胞培養や毒性などをテーマとした 11 題の発表が行われた。またポスター発表では 2 題の研究奨励賞応募演題を含むレジン、セラミックス、器械・技術、接着や臨床応用を中心とした 39 題の発表が行われた。

今大会の特別講演は日本大学生命歯学部発生・再生医学講座教授 中原 貴先生より「歯の再生医療の実現に向けて ～歯の‘再生研究’から‘再生医療研究’へ～」と題して、臨床応用を見据えた体外培養による再生医療研究についての最新の研究成果が報告され、再生医療が実験段階から次のステップに移っていることが参加者一同に深く印象づけられた大変有意義な講演であっ

た。

大会二日目は CAD/CAM、ジルコニアやインプラント、歯科用合金、腐食を中心とした 16 題の口頭発表と各種生体材料やインプラント、コンポジットレジンを中心とした 38 題のポスター発表が行われた。二日目はあいにくの雨となったが、肌寒い屋外とは無縁の熱のこもった討論が大会終了まで行われていた。

今大会のポスター討論は両日とも午後に偶数/奇数の発表番号で、討論時間を変える方式で遂行された。この方式はポスター会場を広く使えるだけでなく、ポスター発表者自身も同セッションの他の発表を聴講し、討論に参加できる点で大変良い試みであったと思われる。

夕刻の懇親会では新潟の幾多の名酒が美味しい料理と共に振る舞われ、参加者一同、時間を忘れて楽しんでいる様子がうかがわれた。

今大会は宮川行男大会長、赫多 清準備委員長を始めとするスタッフの皆様のご尽力により、今大会は極めて順調な進行であり、盛況の内に無事終了を迎えました。これもスタッフの皆様の長期間にわたる入念な計画と準備の賜物であることを深く感謝し、第 62 回日本歯科理工学会学術講演会の報告とさせていただきます。

宇尾 基弘  
(東京医科歯科大学歯学部総合研究科先端材料評価学分野)

